

# 自己評価および外部評価結果結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、地域密着型サービスの理念を共有し、理念の実践に取り組んでいる。	社会福祉法人七つの鐘の共通理念とグループホームの理念の基に、利用者本位のサービスを提供する為に、七つの基本理念を設定し共通認識として活動している。	グループホームのすべての活動の原点として、この基本理念の基に、継続的に全職員が研鑽と実践を積み、利用者の生活の安寧に貢献する事を期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方とほぼ毎日顔を合せ、挨拶を交わし、お互いに野菜等の収穫について話し、頂く、差し上げたりと地域の一員として日常的に交流している。又「子どもを守る安心の家」の看板設置し、学校帰りの小学生が水を求めて立ち寄る等交流している。	グループホームとして地域との交流を積極的に進めている。地域でも大切な施設と受け止められ、職員及び利用者の地域との関わり方も好ましい関係と思われる。	グループホームも地域も変化していきますので、その変化に敏感に反応した対応して行く事が大切だと思います。現在の関係を継続し発展される事を期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として介護福祉士、社会福祉士の実習を受け入れている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催し、事業所の活動や防災訓練、外部評価等の実施状況の報告をしている。地域の皆さんは高齢者福祉に関心を持っておられる。	運営推進会議には地区・福祉・施設関係者が参加し、2ヶ月間隔で開催され、グループホームの運営に活かしている。	事務局(グループホーム)主導の会議に成り易い事は現状では仕方ない事と思いますが、参加者が主体的に関わってくれる会議に進化できるように取組むことに期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員が運営推進会議のメンバー(民生委員、町会長等)と密接な関係にあり、研修会を開いたり、施設見学に行かれたり、事業所に対して協力的である。	地域包括支援センターとの連携が取れていると感じます。又、研修会・施設見学等の実質的な支援も、グループホームに好意的である。	関係機関の職員の異動等状況の変化が有っても的確な対応をされ、良好な関係を継続される事を期待します。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修により「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	現在身体拘束の事例は発生していない。安全への配慮と家庭的な人間関係を維持することで、身体拘束をしなくてもすむケアを心掛けている。	今後ともオープンな状況認識の共有のもとで組織的な対応に心掛けて行く事に期待します。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修により、高齢者虐待禁止関連法について理解を深め、事業所内での虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修により全体会議で資料を配布し、必要性を話し合う機会を設けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項の説明を行い、十分に納得して頂けるようにしている。また、介護報酬の改定や利用料の改正時には説明を行い、理解を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回家族会を開催し、ご家族と第三者委員との意見交換の機会を設け、それらの意見を反映している。	利用者の家族アンケートの内容からも、関係者とのコミュニケーションは良好である。家族会(年1回)での要望・意見の実現に取り組んでいる。	家族会の開催について、家族などの都合などあるかと思いますが、変化への対応と季節的な対応などから回数を増やす事に取組んで頂く事を期待します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体会議を開催し、全職員参加して意見交換を行っている。また随時意見要望などが出せるような雰囲気作りを心掛けている。また代表者が年末に職員の自己評価と意見の提出物に目を通している。	全体会議(全職員)を毎月開催している。情報の共有と具体的な対応等について改善・処遇等グループホームでの取り組みを進めている。職員も会議はオープンで友好的と評価している。	トップ・ダウンとボトム・アップをテーマにより適格に使い分け、グループホームの理念の実現に向けて、協力体制をより高く効率的なものに進化向上する事を期待します。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も2か月に1回の運営推進会議に参加して、事業所の状態、職員の悩みを聞き、改善に向けている。職員の資格取得に向けた支援を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の事業計画として職員のスキルアップ(研修の充実、資格取得給の援助)をあげて例年にくらべ研修参加機会が増えている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の別のグループホームとは納涼祭等での交流会を行い親睦を深めたり、共同での研修参加や情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の事前面接を家庭に出向き、ニーズの把握をしている、本人はグループホームへ入所の意向があるか、概要説明等で把握するようにしている。本人の心情を受け止め、不安の軽減に努め、要望等も親身な姿勢で傾聴するように努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の事前面接を御家庭で実施しニーズの把握をしている、家族の意向と家庭で困っていること等本音を聞き相手の存在に反応、応答ができたかを重視して信頼を築くように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の相談に親身に応じ必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の経験からの知恵や話を聴いたりして職員も多くを学ばせて頂く中で、利用者の少しの言葉にも耳を傾け一緒に過ごし、支え合い、喜怒哀楽を共有できるような関係作りをしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との信頼関係を非常に大切にしている。家族の要望、不安を聞き入れ、それに見合ったサービスを提供している。家族の事業所への厚意に深く感謝しており、そういった中で深く話させて頂き喜怒哀楽を共有し、一緒に御利用者を支えていく関係を築けている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者のなかには、地域の方との馴染みができ良い関係を継続している。近所の商店や散歩場所は馴染みの人や場所となっている。外部からの来訪者もオープンにしている。手紙や電話利用の支援等で継続的な関係維持を行なっている。	利用者の地域の人々との交流や人間関係を大切にしている。小学生など地域の人々との友好的なふれあいもあり、新旧色々な付き合いの継続を計っている。	人とのふれあいも変化します。加齢と共に疎遠になってしまいます事もあると思います。グループホームの方針でもある“ホッ”とした空間を、ホーム外にも求めて利用者の支援を期待します。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、入居者間関係を理解し把握し入居者同志がお互いの関係を大事ながら生活が送れるよう支援や調整役を行っている。畑仕事や外出行事、毎日の生活のなかでお互いが協力したり、和やかな雰囲気の中で過ごせるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の特養「小倉対一」に入所された方は来所時に面会の機会を設け職員、利用者同士の触れ合いをしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月担当者会議を設け検討している。その他その都度必要時は連絡帳に記入し、朝のミーティングを活用して入居者全員が、その人らしく生活出来る視点を職員が持ち、入居者本位に対応できるよう努力をしている。	利用者の行動や意向を注視して情報の収集に留意している。日常的に申し送りノートから共有化に努めている。又、全体会議で協議・対策を立て実施している。	現象や意向には必ずその“原因”があるものと考えられます。必要な対応を進めると共に、その“原因”に対しても的確な対応を継続する事に期待します。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に協力と理解を頂き、本人のバックグラウンドを把握、本人の生活歴やライフスタイルの情報を得ている。毎日の生活や言動からその人の価値観や個性を捉え、尊重した対応を心がけている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービスの実施と評価表を作成し日勤者が記録対応をしている。統一したサービスで現状把握に役立っている。また入居者個人個人の生活パターンを尊重した対応を心がけている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月担当者会議を設け、サービスの実施と評価表の参考に気になっていることを個別に検討している。本人や家族の要望も取り入れた計画を作成し、その都度ご家族やご本人の承認を得ている。	利用者アンケートでも概ね話し合いにより了承を得て介護計画が作成・変更されている。また全体会議により職員が情報等共有され実践されている。	介護計画は利用者・家族に解かり易く、専門性も要求される事と思います。家族に対しての説明など平易な表現で時間をかける事の継続に期待します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌には、個人個人の1日の生活状況が把握できるような記録をしている。介護記録は、日中、夜間の状態を個別に記録。出勤職員は必ず目を通し、個々の状態を把握し、情報の共有と実践に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の変化に留意し、今後の支援を家族と相談しながら行っている。緊急時や家族の対応困難な時は、柔軟な支援をするように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の皆さんが安心して生活ができるように、町会長、民生委員、消防署、警察等の協力を得ている。地域の行事には積極的に参加。保育園との交流も継続的に実施している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要時は家族との連携を図り、家族の希望するかかりつけ医にして頂き適切な医療が受けられる様支援している。	家族からの感想から、内科医の往診は感謝されている。利用者の通院時の家族同行については予定の連絡を早めに欲しい等の要望が寄せられた。	現行のシステムを継続すると共に、職員の医療に関する知識の向上にも取り組んで行くと共に利用者の通院時への家族連絡など工夫され取り組んで行く事に期待します。
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接している関連施設のデイサービス看護職員に必要時は相談し、適切な受診や看護を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して過ごして頂けるよう努め、協力機関との情報交換を速やかにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化により状態に変化があるときは、その都度家族に報告、相談をしながら対応している。家族の意向を傾聴し特養の申し込みについてはケアマネジャーの意見書を添えて家族が直接申し込みをされている。	利用者の重大な変化についてはこまめに連携と対応に心掛けている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命法の講習は職員全員が受講している。緊急時マニュアルも整備され、随時勉強会も行っている。今年度はAED導入に際しての訓練も行った。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、消防署、近隣住民の協力を得て、避難訓練・消火訓練を行っている。通報訓練や夜間呼び出し訓練も随時実施。	法令と「七つの鐘消防計画」「つりがね草消防計画」に則り、関係機関及び地域の協力を得て実施している。アンケートから2階の居住部について安全確保についての心配が寄せられている。	防災・安全対策については、過ぎたることはない重要事項です。投資・コストの大きな部分ですが、2階については特段配慮が必要と思います。利用者・家族の安心の為にも検討頂く事を望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳の保持とプライバシーの保護に配慮した対応を心がけ、言葉の調子や目線、言動に注意を払いながら、さりげない対応を行っている。個人情報保護法の理解のもとで、本人のプライバシーに関する秘守義務を徹底している。	利用者とその家族についての個人情報の保全に注意をはらっている。又、利用者一人ひとりの人生を尊重し、その人らしい生活が確保されるようケアに心掛けている。	チョットした気の緩みや不注意で利用者の尊重を傷つける事もあります。又、誤解などから不測の事態を招く事もあります。お互いに注意奮起を継続してゆく事を期待します。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の状態に合わせた方法で、その人の思いや希望を引き出す支援をしている。日常生活のなかで、一人一人の持てる力に合わせて自己決定の場面を多く取り入れる努力をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切に、その日の体調・どのように過ごしたいのか、希望に添って支援できるよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容や身だしなみのため、鏡やブラシを自室に用意している。日常着は基本的にご本人が選択している。美容院を利用する方、理容を利用する方の中には、おしゃれな毛染を楽しむ人もいる。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物に同行して頂き、その場で選んで頂いている。食事は利用者・職員と一緒に摂っているが現在は調理、片づけを行う事は限られた利用者になっているが、何か少しでも利用者が力を活かせるような様々な事に注意を向けるよう努めている。	食事の用意や片付けに希望する利用者が職員と一緒に取組んでいる。担当する職員が食事作りを楽しんでいる姿が印象的であり、内容も細かい所まで配慮され暖かさを感じる調理内容であった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	粥食希望ほか栄養バランス等も考慮し、本人の好みで食べる量が確保される様支援している。水分摂取には十分な注意を払い、水分補給をいろいろな形で提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員が理解している。毎食後のうがいや義歯洗浄を支援している。就寝時は各自保管し、週2回の薬液による洗浄を実施している。残歯は職員が歯みがきを介助し口腔内の清潔を保つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在はオムツ利用者はゼロである。トイレでの排泄を支援しリハパン使用者は陰部、臀部の清拭をご本人あるいは職員が介助して清潔保持に努めている。	利用者個々人の状態に対応したケアが行なわれていた。羞恥心に対する配慮を心がけ対応されていた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は繊維質の多い野菜を中心に、タンパク質、乳製品等を毎日取り入れ、食事やおやつで工夫して摂取している。毎日の散歩や体操で体を動かし、自力での排便を促している。スムーズに排便が出来ない方には主治医の指示のもと処方がなされている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望も聞き、入浴は毎日実施。本人の入浴スタイルを尊重した対応を心がけている。当日、入浴のない方全員の足浴と指間の洗浄を実施し、清潔保持と水虫対策をしている。	浴室は清潔で好感を持った。利用者の希望を尊重した入浴が確保されていた。入浴を好まない利用者への入浴促進への取り組みも進めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体力や状態に合わせた休息が取れるよう支援している。日中の活動量の確保や散歩、畑の野菜収穫等、日光を浴びることで生活リズムを整え、夜間の安眠につなげている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容や目的、副作用、注意事項のファイルは個人毎に整理されている。勉強会にも取り上げ、服薬内容や作用のリストを職員に配布している。薬の変更時は担当者から連絡帳等で連携をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	基本的には「自分のできることは、自分で行なう」ことを支援。出来ることの見極めを行い、職員の手出し過ぎに注意し、本人にとって過不足のない支援を心がけている。犬を飼うことで利用者がふれあい、癒されている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の人々の理解や協力を得るため、出来るだけ事業所から地域に出ることにしている。入居者の体力に合わせた対応で心身の活性化や生活リズムを整えるため、日常的に散歩を実施している。	グループホームのアイドル犬ハナとの散歩をはじめ積極的に外出の機会をつくり働きかけている。地域の人々との交流も嬉しい様であり、一石二鳥の効果も望める。	地域との関係が定着した感がある事は良い事である。地域の人々との交流も一層進む事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意向やご家族の希望で、小遣いを所持されている方が多い。自分の身の回りの物は職員と買物に出掛け自分で清算するように支援している。お金の価値が理解できない方も自分の手元にあることで安心されている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の申し出を受け、手紙の投函や電話の取り次ぎを支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先は、プランターに花を植え、玄関や談話室には季節の花を飾り、安らぎと居心地のよい空間になるようにしている。廊下には入居者の貼り絵の作品や写真を貼り、親しみのある空間作りに努めている。整理整頓に心がけ、生活感も出すよう配慮している。	清潔で居心地のよい居間・付帯施設である。室温も心地良く照度も明る過ぎず落ち着きがある。カーテンの開閉は利用者が主体となり行いながら、職員が寒暖の様子を見ながら住環境の確保に工夫をしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	階段下の隅にテーブルや椅子。玄関にはソファが置いてあり入居者同士や一人で過ごすことが出来る。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのダンス、茶ダンス、机や椅子、仏壇等を持ち込まれている方もいる。部屋には家族の写真、行事の写真等を飾ってある。入り口にはプライバシー保護のため、のれんを設置し安心出来る配慮をしている。	利用者それぞれが室内のレイアウトと身の回りの持ち物を自由に楽しんでいた。訪問日はお客さんが来るとおめかしされて出迎えてくれた。整理整頓もされており落ち着いた生活をされている様であった。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の持てる力や能力の把握に努めている。居室のドアには小さく名前が張ってある。トイレはのれんを掛けたり、分かりやすく表示をしている。		